演説用

機会を捉える - 危機の先を考える
ブルッキングス研究所での演説

国際通貨基金専務理事
クリスティーヌ・ラガルド

2012 年 4 月 12 日 米国・ワシントン DC

おはようございます。本日この場で、皆様にお話することができることを光栄に存じます。このような機会を与えて下さったブルッキングス研究所、そして、特に私の友人であるストローブ・タルボット氏、およびケマル・デルビシュ氏に厚く御礼を申し上げます。

世界経済の今後について話し合い危機への取り組みという喫緊の課題の先を見据える場として、ブルッキングス研究所は理想的だと言えましょう。

実際、国際通貨基金（IMF）とブルッキングス研究所は共に、世界危機から先見の明に富んだ人物により設立されました。ブルッキングス研究所のロバート・ブルッキング、IMF のジョン・メイナード・ケインズとハリー・デクスター・ホワイトの各氏は、危機の只中にあっても機会を捉え、どのようにしてより良い明日を形づくるかべきか、粘り強く考えました。

機会を捉えたのです。

有名な詩人ホラティウスは詩集『頌歌』で「現在の機会を捉えよ」 と謳っています。

タルボット氏とデルビシュ氏は、この精神を受け継ぎました。それぞれが自分の流儀で機会を捉えてきました。タルボット氏は、ソビエト連邦の解体後の世界で活動を続けました。そして、デルビシュ氏は、トルコの経済担当大臣として、大胆な改革を勇気を持って遂行しました。これが、危機の後に遥かに良いポジションに立つトルコの誕生につながったのです。

我々は、今般の世界金融危機の最中、新たな協調意識とともに 20 カ国グループ（G20）の首脳が集まった時に、この精神を見て取ることができました。最初は、

2008 年末にここワシントンで、そして 2009 年の初めに再びロンドンで目撃することになりました。実際、これを「ロンドン・モメント」と呼ぶ人もいますが、この時に、世界の要請に応えるべく IMF の能力を強化するなど、精力的に連携が図られたことは、皆様も覚えていることでしょう。

そして、我々は現在、このような節目に再びあるのではないかと、私は考えます。

ここ数カ月間、問題に立ち向かうため、重要な対策がとられてきました。主に欧州ですが世界の他の地域についても同じように考えています。その結果、経済状況の改善を若干見ることができました。

しかし、リスクは依然として高く、状況は脆弱であるということを強調しなければなりません。

一方、我々は、熟考を重ね未だ残る課題に積極的に取り組む時間を、僅かですが得ることができたのです。

世界の金融界のリーダーが集う IMF の春季会合が来週開催されますが、これが「ワシントン・モメント」になる可能性もあるかも知れません。

これは何を意味するでしょうか。我々は、対処しなければならない根本的な問題を三つ抱えています。

- 第一に、危機を寄せ付けないために必要な次の措置を講じる。
- 第二に、危機を過去のものとするため、より持続的な成長と安定性の達成に必要な基礎を築く。
- 第三に、連携の促進－および IMF の強化－により、世界経済で起こっている構造的シフトをどのように活かすか。

I. 経済危機を食い止める

第一に、危機を寄せ付けないために、いまだ残っている課題に積極的に取り組まねばなりません。

わずか数カ月前まで、我々は底知れない深みを覗き込んでいたかのようでした。先日、米国が危機を脱し始めた兆候を示すデータがいくつか発表されました。欧州の市場の緊張は、昨年 12 月より若干緩和されました。しかし、この一週間で起こった出来事により、市場が依然として変動的であり「危機を脱する」ことは決して容易

ではないことを改めて認識することになりました。これまで、新興市場及び途上国は、相対的に力強さの源泉でありましたが、これからもそうあるべきです。

ただし、再び繰り返しますが、我々は油断してはなりません。

ネルソン・マンデラ氏が述べたように、*「ひとつの巨大な丘の頂点に立ったとき、人はまだ登るべき無数の丘があることを発見する」*のです。

明らかに、現在立ちはだかる最大のリスクは、欧州において、政府と金融のストレスが新たな力を伴って戻ってくることです。

欧州諸国が講じた最近の措置は、政策をめぐる決意と行動の力をタイムリーに改めて示したと言えるでしょう。しかし、リスクは依然として存在し、我々が登らなければならない丘はいくつもあります。

欧州は、国レベルで引き続き強力な政策を実施し、欧州中央銀行の支援を継続し、より健全な銀行システムの構築と財政統合に向け引き続き取り組むなど、これまでの努力を継続しかつ活用しなければなりません。欧州の金融の防火壁を強化する、我々が待望していたユーロ圏の閣僚の決断も不可欠となっています。

こうした措置は、ゆっくりですが確実に、信認の回復と脆弱性の軽減に力を発揮することでしょう。

ただし、この危機と戦うには、より広範なアプローチ、そしてより強力な世界レベルの防火壁も必要なのです。

今日の世界経済は様々な点で直接かつ相互に連関しており、欧州の防火壁の強化は、問題解決の一部を成すのみです。世界規模の防火壁の強化が、全ての国のための「防御の輪」を完成する上で有益でしょう。

ここで、IMF は役立つことができます。ただし、可能な限り効果的であるためには、我々の財源を増強する必要があります。

IMF は全加盟国を支援し、危機の影響下にある全ての国々、すなわちその震源地であろうとも第三者であろうとも、全加盟国のニーズに応えることができなければなりません。

もちろん、IMF は、こうした経済環境の動向や欧州のものも含めた政策措置全般を勘案し、継続的にグローバルリスクの再評価を進めています。今年はじめの我々の試算ほどの増強は必要ないと思われます。

しかし、間違えてはいけません。リスクやニーズは依然として大きく、逆だと思うのは、軽率でしょう。

こうした状況において、私は、多数の加盟国が IMF の財源を増強する支援を表明したことに勇気づけられています。そして、来る春季会合で、この問題が進展することを期待しています。

機会を捉えなければなりません。

II. 危機を過去のものとするために、今後の成長と安定性に必要な基盤を構築する

二番目の重要な点である、危機を過去のものとするための成長と安定性のより堅固な基盤を築く機会についてお話しましょう。

今般の経済危機は、我々の経済の枠組みの根幹を揺さぶりました。あまりにも長い間、わずかな国のみが成長の恩恵を享受してきました。そして、格差の拡大と脆弱な金融セクターのために、世界は不安定で危機が生じやすくなっています。

私は、IMF 専務理事に就任してから 9 カ月の間に、加盟国を訪問してきました。そして、その不安定な現状の代償を見てきました。失業の人々への影響、人々が経験する苦しみと尊厳の損失、そしてその経済的損失を見てきました。こうした状況は、先進国、新興市場国、低所得国にかかわらず、どの国においても同じです。

アラブの春から移行途上にある国々で、特に若い人達に、社会的疎外と高失業率が相まって痛ましい問題を引き起こしています。この移行期で、失われかねない世代です。

この地域全体で進む改革は成功しなければなりません。中東地域に住む人々全てが、より公平でより豊かな未来を手にする機会を得ることが不可欠です。そして、我々がその実現に向け支援することが不可欠です。

なかでも、未来を危うくする短期的な経済の不安定リスクを回避するには、適切な金融支援が不可欠です。行動を起こさなければ、そのコストが、この地域とそして世界経済に何倍にも跳ね上がって返って来るでしょう。

世界経済は、中東及び他の地域に、人々が必要としている適切な成長と雇用をもたらさなければなりません。しかし、現時点で必要としているスケールで実現しているとは決して言えません。

したがって、我々は経済危機に立ち向かいながら、この機会を利用してパラダイムを見直し、新たなタイプの成長を活かさなければなりません。

それは実際問題として、何を意味するのでしょうか？

世界の最も優秀な経済学関係者のなかには、ここブルッキングス研究所も含め、この問題に立ち向かっている人々がいます。我々IMF も、この問題に取り組んでいます。

では IMF の考えるところを、いくつかご紹介したいと思います。

短期的には、更なる信認と需要が必要であることは明白です。したがって、成長が引き続き弱いところへの支援を、政策の当面の焦点としなければなりません。

多数の国々、特に先進国では財政の調整は不可欠です。ただし、調整のペースが重要であり、各国の状況に見合ったものでなければなりません。

直ちに大胆な調整を行う以外に選択肢がない国もあります。しかし、この状況は全ての国々に当てはまるわけではありません。赤字削減を段階的に実施し、経済が弱まれば、税収の落ち込みとともに支出を増やす自動安定化装置を機能させることができる先進国もあります。また、成長への悪影響を食い止めるため、今年は赤字削減のペースを柔軟に見直すことができる国もあるでしょう。

ただし、当面の警戒を理由に、健全な財政の回復に向けた努力を遅らせるべきではありません。例えば、米国や日本で必要なように、中期的な信頼できる計画に基づいた調整を行えば、財政上の懸念への対処に役立つだけではなく、信認や成長を補完することになるでしょう。

さらに、実質的にほとんどの先進国のようにインフレが抑制されている国では、金融政策により成長を支えることも可能です。新興国の場合は、特に原油価格の上昇や信用ブームが継続しており、インフレを押し上げるようになっているならば、もう少し注意を必要とします。

一方、低所得国も、適切なバランスを取ることが必要です。援助の流れや海外送金の減少に見舞われていますが、このような中でも、特に欧州から広がっている現在のリスクを防がなければなりません。政策余地の再構築が優先課題です。

こうした類の政策は、短期的に成長を再び促すうえで役立ちます。長期的には、より包括的かつ持続的な成長に向け、取り組みを進めなければなりません。

かねてより IMF は提唱していますが、世界経済のリバランス、すなわち対外赤字国から黒字国への需要のシフトが鍵となるのは明らかであり、その重要性はさらに増しています。例えば、中国では明るい兆しが一部分ではありますが、見ることができます。しかし、それでも我々には実行すべきことがさらにあるのです。

また、IMF が最近実施した調査により、所得の一段と公平な分配が、経済及び金融の安定性とより持続的な成長を促すことがわかっています。

たとえば、ブラジルは、焦点を絞った一連の効果的な移転プログラムを通じ、1990 年代はじめより格差を大きく縮小してきました。IMF の分析は、他の国がブラジルと同程度に格差を解消するならば、そうでなかった場合と比較して、持続的な高成長の時期が 50%長く続く可能性があることを示しています。

インドと中国も、貧困削減で大きく前進しています。ただし、高い成長を遂げる一方で格差が拡大しており、注意が必要です。

すなわち、我々は成長を必要としています。公平な成長、包括的な成長が必要です。

そのために 重要な点は多数ありますが、ここでは 3 点に絞りお話いたします。

第一に、経済を不安定にするのではなくサポートする金融システムが必要です。これは、与信、成長、雇用をもたらすよう金融システムを修復することを意味します。加盟国全体でより優れた規制や監督、協調体制を確立し、無謀なリスクテイクの再発を防ぐことを意味します。そして、金融セクターが相応の負担を支払うことを意味します。金融セクターの改革に満足してはなりません。使命はまだ達成されておらず、達成する必要があります。

第二に、雇用機会のさらなる創出のために、競争力を強化し、労働市場の機能の向上を図らなければなりません。重要な点は、人々を仕事に復帰させることです。アイルランドで最近実施されたイニシアティブは、その好例です。労働者が機会を活かせるよう、労働者には的を絞った訓練やインセンティブを提供し、雇用主に対しては、失業者を雇用するようにしました。

こうした措置が容易であるかのように取り繕う必要はありません。労働市場の改革は、困難な仕事です。多くの場合、人件費の引き下げを伴います。しかし、改革は競争力のためには不可欠であり、今後、なかでも若年層の雇用機会をより多く創出するために不可欠です。遂行しなければなりません。しかし、各国の状況に従い、慎重に行う必要があります。

第三に、時に必要な厳しい改革を実施することで、社会構造に大きな負担がかかるリスクがあります。したがって、適切なセーフティーネットを保護しかつ強化しなければなりません。この問題は、IMF が現在支援している多くのプログラムにおいて重要な目標となっています。たとえば、ケニアでは、政府が最も脆弱な人々を対象として支援を行った結果、現金給付を受け取っている世帯数はわずか 4 年間で 200 世帯から 33,000 世帯に増加しました。

IMF は、国際労働機関 （ILO）を含めた他の機関と密接に協力し、雇用や包括的成長に関しより幅広い調査・分析を行っています。

我々は、この機会を捉えなければなりません。

III. 世界的変化を前に結束する

では、最後に、世界経済で生じている大規模なシフトを前に結束しこれを活かすという点についてお話いたしましょう。

私が恐れているのは、根強く残る不安定性のリスクにより、政策当局が内向きになってしまうのではないかということです。私は、協調的なアプローチを取ることで、成功を手にするチャンスが増すと確信しています。

新興国は台頭と落ち込みを繰り返してきました。そして、これらの国々は台頭*した*と言えましょう。

我々は、低所得国での貧困削減における歴史的な進歩も目撃しました。これまで 20 年間にわたり、新興市場国と途上国が世界の経済成長の 50%以上を牽引してきました。加えてこの期間に、6 億人を超える人々が貧困から抜け出しました。

こうした国のグループは、世界経済でますます重要な役割を果たすようになっています。世界のガバナンス構造で、これらの国々はより大きな役割を果たさなければなりません。実際、これらの国々の参加により G20 が強化されました。187 の国々が加盟する IMF でも、日々これを目にすることができます。2010 年の IMF のクォータとボイス（投票権）の改革により、これらの国々の参加がより強化されます。

私は、全ての 加盟国にこの改革をタイムリーに行なうよう、これまでも絶えず、そして今も呼びかけ続けています。

我々は、新たな形での協調を様々な場面で目にする機会が増えています。欧州の経済危機との戦いでも見て取ることができます。チェンマイ・イニシアティブのような地域的な取極や、アジアでの中央銀行間のスワップ協定のネットワークの拡大に、

そして、たとえば、BRICS（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ）による開発銀行の設立計画の中に見ることができます。

それぞれの国が、協調行動を通じて得られる結果を理解しています。

IMF も協調の重要性を理解しています。IMF は、グローバル化が進む世界がまさに交差する地点にいます。そして、我々は、この位置に今後もとどまり重要な役割を果たすには、加盟国をより反映し、経済の変化に対応する各国のニーズに効果的に応えなければならないと理解しています。

再び、アラブの春の国々のことを考えてみましょう。IMF は、助言、技術支援、そして金融支援を組み合わせた独自の支援を行うことが可能です。IMF は、コンセンサスに基づいた、*これら諸国*のニーズに対応する*これら諸国*が作り上げたプログラムへのサポートと、最も脆弱な人々の保護にコミットしています。重要なことは、IMF はこの支援を同地域の各国政府及びドーヴィル・パートナーシップと密接に連携して行っているのです。

ここでのメッセージは明らかです。協調は我々を強くします。

一例を挙げますが、私は最近のアフリカの一部の国々による行動に感銘を受けました。これらの国々はこれまでに、先に IMF が行った金の売却の自らの取り分を、我々の譲許的融資を支える財源へ供出することにコミットしました。財源の 3 分の２はアフリカからです。

こうした政策の選択は、我々を勇気づけるものです。これからも、こうした選択を足がかりにしていきましょう。

最後に

経済危機はまだ終わっていません。しかし、協調的な取り組みにより、危機が展開を見せるなか、我々が抱えている問題について見直す機会を得ました。それは、こうした問題へ対処する上で必要なことを見直す機会であり、危機を寄せつけることなく乗り越えるために、確実に必要な対策を推し進める機会です。

我々は、この時を無駄にしてはなりません。以下の 3 原則に沿って行動する必要があります。すなわち

第一に、<u>迅速に行動</u>しなければなりません。今日実行することは、明日に影響を与えることを意識して、早急に適切な政策を実行します。

第二に、連携しなければなりません。自己の利益に勝る世界全体的な利益の重要性を過小評価しないでください。

第三に、自信を持って行動しなければなりません。IMF や我々の友人であるブルッキングス研究所をはじめとする様々な機関の支援が、改革に取り組む国々と常に共にあります。

アレキサンダー・グラハム・ベルは、かつてこう言いました。*「ひとつのドアが閉まると、別のドアが開く。しかし、我々は閉まったドアをいつまでも残念そうに見つめているため、我々のために開いているドアが目に入らないということが度々起こる」*

チャンスがやってきたなら、我々はドアを開けるべきなのです。

ご清聴ありがとうございました。